

共通 SF カードシステム「トランパス」を河和線 8 駅に導入します

名古屋鉄道は、お客さまの利便性向上を図るため、専用磁気カードを自動改札機に通し、乗車区間の運賃を引き落とす共通 SF(ストアードフェア)カードシステム「トランパス」の導入を進めていますが、本年 7 月 14 日(金)に、河和線の 8 駅(高横須賀、巽ヶ丘、阿久比、住吉町、知多半田、青山、知多武豊、河和)に導入します。これにより、全線 281 駅のうち、163 駅でトランパスの利用が可能となります。また、同システムの導入にあわせて、阿久比駅、青山駅の両駅を終日駅員配置駅にいたします。

なお、河和線の未導入駅につきましては、今年度中に同システムを導入する予定です。

参考

共通 SF カードシステム「トランパス」

トランパスは、1 枚のトランパス対応カード(当社発行…「SF パノラマカード」、名古屋市交通局発行…「バス・地下鉄共通大人用ユリカ」、名古屋臨海高速鉄道発行…「あおなみカード」)で名鉄電車・バスと名古屋市営地下鉄・バス、桃花台新交通、あおなみ線、リニモが相互利用できるもので、平成 15 年 3 月に初めて小牧線に導入して以来、順次使用範囲を拡大しています。

以上

【共通 SF カードシステム「トランパス」導入路線図】



(平成 18 年 7 月 14 日現在)